

---

## 27 文房具

---

私は、もともと整理が苦手だ。だから、いつも散らかして、家族のひんしゆくをかつている。その私の部屋が、イギリスにいるときは、なぜか比較的整頓されている。もちろん、日本にいるときより時間に余裕があるのと、ものがないから整理がしやすいというのも事実だが、もうひとつの理由は、イギリスの文具が整理しやすくできているからのように思う。

正直のところ、イギリスのノートやファイルに慣れてしまうと、日本のものは使う気が起こらなくなってしまった。もちろん、品質は日本のもののほうがいいかもしれないし、日本のほうが、センスのよいデザインのものも多いかもしれない。違うのは何かというと、日本の文具は見た目の品質やデザインにばかり目が向けられており、肝心の使いやすさという点に、あまり配慮がされていないことだ。私たち大人が、実用的に使うための文具の条件は、何よりも機能を優先させることと、システム化されていること、そして、大量に使用するために安価なことだ。

ひとつの例として、ノートを取り上げてみよう。ノートで最も重要なのは、書いた文字が見やすいこと。日本のノートの大半は、罫線が目立ちすぎる。書かれた文字よりも罫線が勝ってしまい、肝心の情報が読みとりにくい。わずかな差のように思われるかもしれないが、大量のノートから必要な情報を探す場合など、効率は大きく異なってくる。それから、罫線の間隔が狭すぎる。大量の情報をノートし、検索するには適さない。イギリスのノートは、かなり規格化されている。罫線の間隔は8ミリで、もちろん罫線は必要以上に濃くはない。余計な飾りなどはなく、何より安価だ。それから、サイズが正確にA4になっている。日本のように、測ってみるとひとまわり小さいというようなことはない。

次に、ファイル。イギリスで私が重宝しているのは、クリア・ブックのような、ビニール製の袋だ。10枚以下の文書を入れておくのに適していて、私はほとんどの書類をこれに入れている。日本のものと違うのは、台紙が入っていないことと、ビニールが薄くて艶消しになっていること、そして格段に安いこと

だ。クリア・ブックで、台紙というか、中の紙が必要になることはほとんどない。日本のものは、ビニールが厚くて重く、その上、重ねると滑りやすい。重さの違いは、百枚の単位になると、決定的な差となる。イギリスのものは、艶消しになっており、そのままコピーもとれるし、OHPのフィルムを入れておけば、出さなくても使える。100枚が300円余りで売られているから、大量の使用も可能だ。あまりに便利なので、これだけは日本に帰っても使いたくて、大量に買い込んでしまった。だが、いくら軽いとはいえ、船便で送っても、送料のほうが高くつくに違いない。

こうした書類をまとめて入れておくのは、ワレットと呼ばれる紙の袋状のファイル。100枚程度までの文書を入れておくのによい。再生紙を使用しているので、比較的やわらかく、なじみがよくて、安い。さらに、ワレットなどを入れるのによいボックス・ファイルがあり、それを入れる段ボール箱がある。超整理法をお好みの方には、ワレットを袋として使う方法がある。

イギリスの文具が使いやすいのは、きっと考え方の違いによるのだと思う。イギリスの人たちは、プランをつくるのが得意だし、それに、議論も大好きだ。使いやすい文具とは何かと、大いに議論して、プランに智恵をしぼりきるのだろう。慣例に従うのではなく、斬新なアイデアを大切に作る気風もある。それに、文具などにお金をかけるより、節約してホリデイを楽しむほうがよいという精神も関係しているかもしれない。

---

1996 新納泉 著作権フリー

【付記】OHPは、オーバー・ヘッド・プロジェクター。透明なフィルムにコピーしておいて、それをスクリーンに投影してつかう。スライド映写機からパソコンを用いたプロジェクタまでの間の中継ぎのように使われたが、余りにも短い寿命だった。